

## パリ商業高等大学にての生活

金子 将秀

私は2012年10月から2013年6月にかけてパリ商業高等大学という学校へ留学をしておりました。留学を決めたきっかけは大きく分け三つありました。一つは協定校ということで入学費の負担がなかったことです。二つ目は自分が第二外国語としてフランス語をもともと勉強しており、この言語能力を高めたいと思ったことです。そして三つ目は留学面接試験の際にも話させていただいたのですが、商業という学問は語学ではないので日本でも勉強することは確かですが、自分の国にとどまって勉強をするだけでは視野が広がらないと思ったことです。外国から同じ学問を勉強することで視野が広がり、グローバルな現代をより理解することができると私は信じており、商学部は国際教育に力を注いでいて、私も商学部の一学生として国際教育には非常に関心がありました。明治大学商学部代表というよりも帰国した際には、グローバルパーソンとして世界を代表できるようになりたいという思いが最も留学を決意させた理由であると思います。

留学をしたいが費用が気になるという方は少なくないと思います。そんな方には是非とも協定校留学を利用して頂きたいと思います。個人留学・認定校留学とは違い留学先への学費の負担は大学が協力してくださるため、留学準備のための金銭面の心配は通常と比べ優遇されていると思います。また留学の場合、返済義務のない奨学金が用意されているため(大学内、企業や財団など)、留学を考えている方は選考試験を受ける前からも奨学金を探すことをお勧めさせていただきます。

語学力の面では、フランスの大学へ留学したということもありフランス語に非常に関心がありました。英語はもちろん現代では必要ですが、将来私はフランス語を使える職業に就きたいと考えています。もともと英語が苦手でしたが、フランス語を学び英語がより理解できるようになりました。そしてフランス語は非常に論理的な言語なので、語学として勉強しながらも物事を論理的に考える力が身に付くのが感じられます。現地言語を専攻して勉強したいと考えていた私にとっては皮肉なことですが、パリ商業高等大学は英語に力を入れたい方向けの大学です。フランス語の授業以上に英語の授業が設けられていると感じたくらいですので、学校と日常では違う言語が使えるという機会をくれる学校だと思えます。フランス全土・世界の学習環境を私は把握している訳ではありませんが、この学校へ留学をして感じた一番の当初とのずれは、国籍を問わず全ての人が英語を使っている、悲しいことに留学先ではフランス人までもが英語を使っていたということです。ネガティブな視点見るとフランス語を優先して学習をしていた私にはこの環境に適応するのに少なくとも2か月を要しました。一方ポジティブな視点で見ると自分が生活をしたかった場で新たに英語を勉強できるということだと気づきました。どんな人も留学の目的は語学力の向上、プラスもう一つだと思えます。ですが日本人に限らず世界においてこの自分の芯を常に意識して行動する人は少ないと思います、私は意識しておりましたがそれが自分の目標に届いたとは思っていません。しかし日本人とは固まらず、フランス人という時はフランス語、他国から来た留学生という時は英語と海外で生活しなければ得られない経験を毎日積んだため、自分の留学は成功であったと感じています。

私は前期・後期共にフランス語展開授業 50%・英語展開授業 50%というカタチで履修をしておりました。両言語で共通して最初に感じた壁が先生の話し方、アクセント等です。ゆっくり話すけれどアクセントが強い、アクセントはないが早く話す、など先生によって特徴がありノートを取るのも一苦勞という場面は多々ございました。しかしこれには解決策はなく、慣れと姿勢が大切だと思います。慣れは言うまでもありませんが、各授業ごとに頭・耳・口に集中をして挑むということが

大切だと思います。慣れの面は時間と共に解決されていきますので、こちらは大きな姿勢で構えることが大切だと思います。

生活をする上での費用についてですが、フランスはヨーロッパの中でも物価が高い国です。しかし日本と比べると…日本の物価の高さに気づかされます。一人暮らしをする上で必要なものは本当に安いのです。そして何よりヨーロッパということもあるので、バスや電車で国内・隣国への旅行などもできます。例えば80€でドイツに電車で行ったりしました。当たり前の話ですが、贅沢さえしなければ楽しく生活ができると思います。

授業が終了してテストも終わった後に私はパリにて3か月間インターンシップを行いました。企業のマーケティング部に所属をさせていただいたのですが、学校で習うような語学(フランス語・英語)は一切使われていませんでした。強調して言えば海外で働くということは、言語力だけでは評価されないということです。そして英語が重要な現代ではありますが、欧州内では英語を話すのは当たり前なのでプラスアルファで他の言語も話せるというのが現代、並びに将来においての現地雇用のスタンダードだと感じました。勉強にしても働くことにしても、意欲が大切です。遊びも大切ですが、留学をするのであれば当初からの目的である「学業」へ意欲を向けられるようにしていただきたいです。

## 商学部生へ

日本の学生に対してではなく、全ての日本人にお聴きしたいことがあります。「自分の国、日本が世界でどのような評価を受けているかご存知ですか」ということです。大学の授業を通じてアメリカ人、フランス人の先生方が日本の企業を例に挙げることは数えきれないほどありました。企業に限らず文化・人種の特徴などの面も紹介しており日本が他国と比べ特殊であり、他のアジア諸国とも違い海外から高評価を受ける土台がはっきりしている国だと教わりました。口では言えますが、深すぎなくても自国愛を語れる日本人はこの国ではまれだと思います。世界を見てみると、「自分の国が好き」といえる人がほとんどおり、好きな理由を文化的側面・他国との比較・母国語の素晴らしさなどを正確に伝えます。私にも自国愛はありますが理由を問われた際に深く言えるかと考えると疑問が残るところです。

留学の素晴らしさは今まで自分が暮していた環境とは違う場で勉強・生活することです。ですが一番の醍醐味は人との出会いです。外国語を通じて相手と様々な意見を共有することで自分+他の視点を得ることができます。また幸福なことに現代はネット環境の発達等のおかげで、出会いが切れることはありません。これから留学で海外に長期滞在される方に伝えたいのは、自分の目的を忘れずそれを芯とすること、そして人との出会いには重きを置くということです。商学部は協定校・パートナー大学を多く持っているのです、この機会を有効に活用して世界へ飛び出し視野を広げるということを多くの方に体験して頂きたいと思います。留学可能人数は確かに限られてはおりますが、そこで諦めてほしくはありません。留学は語学や専門学を勉強するだけではなく、自分の人生を大きく変える経験を与えてくれます。異国の地で生活するのは非常に苦労が多いですが、華の都パリでの生活に憧れる方、英語を学習したい方、フランス語を学習したい方、そしてもちろん商業を学習したい方にはISC PARISは素晴らしい学校であると思いますので、自分への将来投資のいみを込めて留学をして頂けたらと思います。